

第28回ありのまま生活福祉講座

ありのまま生活福祉講座とは

福祉を身近なものとして理解して頂き、共に考えていく場となることを願い毎年開催し、28回となります。福祉にとらわれず各方面にわたってご活躍されている方々を講師にお招きして開催しています。また、東日本大震災被災者の方々の思いを語って頂き、落ちつきつつある被災地以外の人々の記憶に改めて刻んで頂き風化させないことを趣旨に行います。今年は、その思いを綴った詩の朗読を行います。

社会福祉法人ありのまま舎とは

進行性筋ジストロフィーなどの難病患者や重度の障害を持つ人々が、ひとりの人間として尊重され、社会の一員として自分の意志で人生の選択ができるように、啓蒙活動や生活の場の運営を通じて、「共に生きる」ことを目的に活動している団体です。

感謝の心をつなぐ



彬子女王殿下

(寛仁親王殿下第一女子)

言葉と声のおくりもの

～いのちの輝きに寄せて～



志伯暁子様

(フリーアナウンサー・企業研修講師)
【志伯暁子さんと癒しの朗読会による朗読ライブ】

平成27年6月20日(土) 13:30～16:00(開場 13:00)

場所：日立システムズホール仙台シアターホール 受講料 2,000円(※全席自由)

※ 車椅子をご利用など、座席等のことをご希望がある場合、前もってご連絡頂ければ幸いです。

主催：(社福)ありのまま舎・河北新報社・TBC東北放送(株) 後援：宮城県・仙台市

協賛：サントリー酒類株式会社東北支社

お申込み・お問い合わせ／(社福)ありのまま舎

〒982-8544 仙台市太白区西多賀4-19-1 電話022-243-1300 FAX022-243-0322

HP：<http://arinomamasya.sakura.ne.jp> E-mail:houjin-arinomama@globe.ocn.ne.jp

講師プロフィール

彬子女王殿下（寛仁親王殿下第一女子）

演題：感謝の心をつなぐ



寛仁親王殿下の第一女子として誕生。学習院大学を卒業後、オックスフォード大学マートン・コレッジに留学。日本美術を専攻し、海外に流出した日本美術に関する調査・研究を行い、平成22年に博士号を取得された。女性皇族として博士号の取得は史上初のことである。平成26年12月まで、慈照寺研修道場に勤務され、国際交流プロジェクトにもご参加。平成24年4月から平成26年3月まで、立命館大学衣笠総合研究機構客員准教授として勤務された。

現在、京都産業大学日本文化研究所に研究員としてご勤務、京都市立芸術大学芸術資源研究センターの客員教授及び特別招聘研究員、立命館大学衣笠総合研究機構客員協力研究員、法政大学国際日本学研究所客員所員に就任されている。

大学関係のほかは、日本・トルコ協会総裁、公益社団法人日本職業スキー教師協会総裁、中近東文化センター総裁にも就任され、各地方への御公務のお成りも含めて精力的に活動されている。

また、子どもたちに日本文化を伝えるために、ご自身で一般社団法人「心游舎」を創設、総裁に就任され、全国各地でワークショップなどを行われている。近著に留学当時の出来事を綴った「赤と青のガウン オックスフォード留学記」（PHP研究所）がある。心游舎ホームページアドレス <http://shinyusha.jp/>

志伯暁子様（フリーアナウンサー・企業研修講師）

【志伯暁子さんと癒しの朗読会による朗読ライブ】

言葉と声のおくりもの ～いのちの輝きに寄せて～



仙台市生まれ。高校時代、ニッポン放送でアマチュアDJとして注目され大学時代からレギュラー番組多数。東北学院大学卒業後はフリーアナウンサーとして東北放送を中心に、自宅で家族の介護をしながら地元でテレビ、ラジオとも多数の番組を担当。平成9年、県内初コミュニティ放送ラジオ3の立ち上げに加わり、150名に及ぶ市民ボランティアを育成。平成9年、天皇皇后両陛下をお迎えしての全国植樹祭、平成10年江沢民中国国家主席歓迎夕食会の司会も担当。ありのまま舎とは、亡き山田富也氏ご指導のもと、式典、イベントでの司会や「ドンパックの世界」では、亡き山田秀人氏と朗読で共演、30年以上のお付き合い頂いている。一方、アナウンサーとしての活動の他、企業・教育界・個人を対象にコミュニケーション、話し方、マナー等の研修講師として30年活動、その中から誕生した朗読講座では、ビジネスマンの方々へ「個声」を活かし作品を読む楽しみを伝えている。

日本交流分析協会交流分析士インストラクター・社団法人パフォーマンス教育協会認定パフォーマンスカウンセラー・社団法人アンガーマネジメントシニアファシリテーター

癒しの朗読会

志伯様の主宰する朗読講座のビジネスウーマンのメンバーで作られた会。思いを伝える作品を朗読することで、疲れた心と体を癒やして頂けたらという願いを込めて、平成17年より「朗読ライブ～言葉と声の贈りもの～」を開催、朗読と音楽、映像とも合わせた世界を作り上げている。東日本大震災以降は、関連の作品も取り上げ、震災を風化させないように伝えると共に、津波遺児の方々への募金活動も行っている。

申込書（FAX 022-243-0322 福祉講座係）

お名前 _____ 枚数 _____ 枚

住所 〒 _____

電話 _____（ _____ ） _____